

グレートマジンガー



2021.06.05

『グレートマジンガー』は、1974年（昭和49年）9月8日から1975年（昭和50年）9月28日までフジテレビ系列で毎週日曜日19時 - 19時30分に全56話が放送された東映動画製作のロボットアニメ、およびそれに登場するスーパーロボットの名前。本作は『マジンガーZ』の続編となっており、マジンガーシリーズの第2作にあたる。スーパーロボット・グレートマジンガーは『マジンガーZ』の最終回で初登場し、そのまま本作へと物語が繋がっている。

【概要】

シリーズ第2弾の企画は、放映の一年半前（1973年の4月）まで遡る。前作『マジンガーZ』は好調なスタートをきったものの、第26話から視聴率に低下傾向が見られたため、兜甲児が新しいロボットに乗って活躍する「ビッグマジンガーZ」が検討されたが、新兵器ジェットスクランダーやコメディ担当のボスポロットなどの強化策を盛り込むことになり立ち消えに。続いて夏には新主人公・神竜鉄也とスクランブルナイツが登場する「ゴッドマジンガー」が企画されたが、Zの視聴率が第40話から20%台をキープするようになったため、これも白紙に。改めて同年暮れ、「グレートマジンガー」の企画書に漸くGOサインが出たものの、Zが30%に迫る高視聴率を獲得したことで放送開始は延び延びになるという複雑な経緯を辿った作品である。平均視聴率は22.8%を記録し（20%を割ったのは、第2話および夏休み中の放映となった第46話～50話の6回のみ。最高視聴率は、最終回「平和の鐘よ 勇者の頭上に鳴り渡れ!!」の27.2%。ビデオリサーチ関東地区調べ）、前作の平均22.1%を上回る高い支持を得ていた。しかし本作のメインライター藤川桂介は、「マジンガーZを凌いだとは思いませんでした。毎週、破壊を思うがままにしていた『マジンガーZ』に対し、本作は行き過ぎにブレーキをかける時代がきたため、破壊をつつむようになり活力が失われたため」と後年語っている。玩具の売上に目を向けると、本作は大成功と呼べるものではなかった。本作のスポンサーで関連商品を発売していた、ポピーのキャラクター別売上では1974年度における前番組の『マジンガーZ』の売上が1位に対し、本作は4位。翌1975年度では5位以下とランクインできなかった。なお、永井豪の漫画版では「グレート・マジンガー」と題名に中黒（または★）が入っており、団龍彦による小説作品『スーパーロボット大戦』の後書きにおける赤星政尚の解説などでも中黒が正しい表記とのコメントされている。また後番組『UFOロボ グレンダイザー』、および『鋼鉄ジーグ』が同時放映開始となる1975年10月5日放映分より、東映動画で制作体制の再編成が行われ、『UFOロボ グレンダイザー』は「ゲッターロボG」のスタッフが制作、『グレートマジンガー』のスタッフは『鋼鉄ジーグ』に移動となった。

【ストーリー】

天才科学者・兜剣造博士は、実験中の事故で瀕死の重傷を負ったが、父・十蔵博士の手により、サイボーグとして蘇った。その後、来たるべきミケーネ帝国との戦いにそなえ、十蔵の設計したマジンガーZをパワーアップさせたグレートマジンガーを製作。孤児の剣鉄也と炎ジュンを引き取り、パイロットとして育成しながら戦いの日に備えていた。息子・甲児がマジンガーZでドクター・ヘルと戦っている間、剣造はその戦いを見守るのみであった。だがドクター・ヘルの敗北後、地底に潜んでいたミケーネ帝国が地上侵略へと乗り出す。彼らの兵器「戦闘獣」の前にマジンガーZはたちまち追いつめられてしまう。この時、ついに剣造はグレートマジンガーを出撃させた。鉄也のグレートマジンガーは初出撃で戦闘獣を一蹴してその力を示した。以後、マジンガーZに代わってグレートマジンガーが地上を防衛する任に就き、ミケーネとの新たな戦いが始まったのである。なお、前作『マジンガーZ』の主人公・兜甲児はアメリカ（ワトソン研究所）へ留学したという設定で、本作中にはほとんど登場していない。ただし、終盤ではパワーアップしたマジンガーZと共に再登場しグレートマジンガーとの共闘を果たしている。また、次作『UFOロボ グレンダイザー』では再びレギュラーとして登場することになる。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

スタッフ

原作 - 永井豪とダイナミックプロ
戦闘獣 デザイン原案 - 永井豪、石川賢、五十子勝、風忍、村祭まこと、高梨俊一、安田達矢、高島茂
音楽 - 渡辺宙明
企画 - 横山賢二、春日東、別所孝治
製作担当 - 菅原吉郎
背景 - サンアートスタジオ、スタジオコスモス、アトリエローク、現代制作集団、マスコット、アドコスモ、スタジオユニ
キャラクター設定 - 森下圭介
制作 - 東映動画、旭通信社

1974年

グレートマジンガー

【グレートマジンガー】

兜剣造が15年かけて建造した「マジンガーZを超える“偉大な勇者”」。身長25m、重量32t。基本設計はマジンガーZと同じであるが、超合金Zよりも軽量かつ4倍の強度を誇る「超合金ニューZ」で精製されており、性能面はより強化されている。光子力エンジン駆動。最高出力は建造当時は90万馬力、『グレートマジンガー』終盤ではさらに強化されて最大出力130万馬力、飛行速度マッハ4（グレートブースター使用時マッハ5）、最高高度50,000m。「マジン・ゴー!」の掛け声と共に海中のグレート発射口から射出され、ブレンコンドルという小型ジェット機が頭部に「ファイヤー・オン!」で合体、コクピットとなる。劇場版『マジンガーZ対暗黒大將軍』および『マジンガーZ』最終回でマジンガーZをボロボロにした戦闘獣を苦も無く撃破して、無敵の強さを見つけた。また、劇場版『マジンガーZ対暗黒大將軍』では人類の最後の切り札として登場。マジンガーZの窮地を救った。背に収容可能な翼スクランブルダッシュを内蔵しており、合体の要素は低かったが、番組終盤で新たな合体式の強化武器グレートブースターが登場している。「スクランブルダッシュ基部を攻撃されると、予備装置が作動して復帰するまでの数秒間全機能が麻痺する」という最大の弱点がある。この設定は、劇中では劇場版『UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー』にて初めて語られグレンダイザーがその弱点を狙って攻撃をしたが、設定自体はテレビシリーズの時点で存在していた。第44話では剣造が鉄也の代わりにグレートを操縦したことがある。設計者ではあるものの操縦には慣れないためか苦戦を強いられた。『グレンダイザー対グレートマジンガー』では、ベガ星連合軍のバレンドス親衛隊長に強奪され、グレンダイザーと戦闘、奪回後には兜甲児がグレートを操縦し円盤獣1体を撃破している。このときバレンドスは初めての操縦ながらグレンダイザーと互角に戦っている。劇場作品では全ての作品に登場する（グレートマジンガー登場前の作品『マジンガーZ対デビルマン』を除く）。OVA版『マジンカイザー』においても唯一、最後まで残存したマジンガーとされ、カイザーと共に行動できるただ1つのマジンガーである。小説作品『スーパーロボット大戦』（著：団龍彦）では、対デビルマジンガー用にして最強のマジンガー、ゴッド・マジンガーのプロトタイプであったとされている（これは企画段階でグレートがゴッドマジンガーとされていたため）。

【ビューナスA】

兜剣造がグレートマジンガーのサポート役として製作した女性型ロボット。パイロットは炎ジュン。全高20メートル・重量23トンとマジンガーZよりも大きい。光子力エンジンで駆動し、最大出力35万馬力。初期のマジンガーZ並みの戦闘力を有している。クインスターという小型機が頭部ヘドッキングしてコクピットとなる。非常時には分離して脱出装置の役割も果たすが、本編中で機体を捨て脱出したのは第53話のみ。第19話や第22話、第26話、最終回などでクインスターインしたままジュンがビューナスを降りている場面がある、どうやって降りたのかは不明（第36話のグレートのような内部エレベーターがあるのかもしれないが描写されず）。普段は滝壺の中に格納されており、ジュンの「ビューナスA、ゴー!」という掛け声と共に滝壺からせり上がり、「クインスター・イン!」のセリフで頭部に合体し起動する。装甲はグレートと同じ超合金ニューZ製のはずだが、グレートに比べ装甲が薄いためか、けっこう頻繁に破損していた。片腕や片脚を叩き折られたり切断されたり腹に風穴を開けられるのはもちろん、胴体を真っ二つにされたこともある（第33話）。前腕部にジャンプ連載版ビューナスの「Zカッター」の名残と思しきブレード状の突起があるが、戦闘に使用されたのは第12話のみで特に切れ味を発揮することもなくバイソニアにへし折られた。ジャンプ連載版ビューナスでは光子カビームを発射していた頭部の二本のアンテナだが、TV版では単なる飾りだった。ただ、細い形状の割に破損したのは第19話のみ（それも片方だけ）と意外に頑丈であった。当初は走って現場へ急行していたが、第25話からビューナススクランダーが追加され飛行可能となった。アフロダイ、ダイアナンと違って当初から対ミケーネ戦闘用として開発されたため、武装はレディロボット中では多め。初登場の第3話Aパートアバンタイトルでは5体の敵ロボットを立て続けに撃破する圧倒的な強さを見つけた。が、どうもこれは模擬戦闘訓練もしくはジュンによる活躍予想イメージだったらしく、直後のズガール戦から早くも苦戦。その後も敵戦闘獣の小手調べとして一蹴される「かませ犬」的なポジションに甘んじるケースがほとんどだった。数少ない戦果としてダイヤカス（第8話）、ピーコング（第13話）、アキレウス（第28話）、そしてアンゴラス將軍（第56話）を倒している（シナリオではムガリッサ、グレスロス、ユニガロス、ゲルニカスもビューナスがとどめを刺しているが、映像化されず）。ただしミケーネスやキャットル、戦車（第41話）、小型潜水艇マリナーアタッカー（第14話）などのザコ相手ならば流石に鬼神の強さを発揮していた。因みに第20話・第37話・第51話・第54話では出撃せず。なお原作版の『マジンガーZ』では、デザインや武装が若干異なる同名のロボットがアフロダイAの後継機として開発され、弓さやかが搭乗して「マジンガー軍団」と共にDr.ヘルとの最終決戦に参加している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



2021.06.05

1974年

グレートマジンガー

【ロボットジュニア】

まだ「先生」と呼んでいた頃に兜シローが剣造にねだって作ってもらった操縦練習用の機体。光子力エンジンで駆動し、最大出力10万馬力。第25話から登場。専用の戦闘服まで用意されており、着用すると3~4頭身から5~6頭身に体型が変化する。兄・甲児の働きを見て自分も戦士になろうと思ったらしいが、基本的にはボスポロットと同じ（いないよりはまし）レベルで運用された。野球少年をモチーフにしており、頭部のヘルメット（ジェットキャップ。ジェットバッターという設定名称がある）がそのまま分離式のコクピットになる。頭部へ合体する際に、シローは「ファイヤー・オン!」と叫んでいた。

【ボスポロット】

前作『マジンガーZ』から続投し連続でレギュラー出演した唯一の機体。パイロットも変わらずボス（とヌケ、ムチャ）である。ボスは光子力研究所から科学要塞研究所付近の廃工場にたむろする場所を移し（第2話）、ジュンに盛んにアプローチしていた。またスクラップ製は変わらなかったが、全高が12mから20mにアップされパワーも上がっている（ただし劇中ではそれらの説明は一切ない）。前作に引き続き、コメディ・リリーの役割を一手に引き受けており「頭部がポロツと外れる」お馴染みのギャグも健在。殊に第42話では登場シーンの殆どがポロツと外れた頭部のみという無茶ぶりだった。また相変わらず「空を飛ぶ」ことに果敢に挑戦と失敗を繰り返していたが、第43話で念願の飛行能力を得る。第38話ではグレート発射孔から飛び出すという荒業を披露している。大半の話数でビューナスと並ぶ「かませ犬」的ポジションだったものの、終盤に来て活躍ぶりが目立つようになる。第43話ではマジシャンスタイルで登場、ステッキから得体の知れないガスを噴きつけて戦闘獣ドメスを撃破した。第51話では、グレートに代わって戦闘獣ギュラソスにポロツピンキックでとどめを刺している。特徴としては前作からボスが執着している「飛行能力」への憧れがプッシュされており、あの手この手の探究心でそれを試みる描写が多く成っている。機械獣を凌駕する強さの戦闘獣にもスペックの差など全く気にせず果敢に挑んでいったが、第46話のソルゴスだけは見ただけで一目散に逃げた。また第52話のみボスのコンディション不良（景気づけにドカ食い過ぎてダウン）により未出撃。劇場シリーズでも新オプションが多く発表され『グレートマジンガー対ゲッターロボ』では唯一完璧な飛行に成功している。スーパーロボット大戦シリーズにおける「乗り換え」を連想させる場面として第35話のキャトル操縦時と第37話のムチャ操縦時がある。殊に前者は目が血走り危険な形相だった。同シリーズで付けられている「補給」機能を示唆するような描写は特に無い。また、「自爆」して敵にダメージといった場面も見受けられず。

【マジンガーZ】

第53話で兜甲児が帰国し、彼の操縦で最終決戦に参戦することになる。前作『マジンガーZ』登場時よりもスペックが大幅に改良され、七大將軍のうちの3体（ライガン・ドレイドウ・ハーディアス）を立て続けに、しかも片腕が無い状態で倒している。永井豪がテレビマガジンに連載していたコミカライズ版において語られたところでは超合金ニューZに換装され出力も6倍にアップされているらしいが、TV本編中では何の説明も無かった。主な武装は以前と同じであり、大車輪ロケットパンチを除くほとんどの武器を使用している。なお、身長18メートルであるはずのZが画面上で25メートルのグレートと並んでもほぼ同じ大きさに見えるのは、パワーアップの際にサイズも大きくなったのだという説もある（一部の書籍ではこの時点のZは身長20メートル、本体重量18トンとある）。なお最終話では『マジンガーZ』最終話の鬱憤を晴らすかのような大活躍を見せており、マジンガーZ一体でミケーネ軍団をほとんど倒している。

【ダイアナN】

第55話でアメリカ留学から帰国した弓さやかが最終回で搭乗し最終決戦に臨んだ。スペック強化について劇中では説明されておらず、弓教授はダイアナNでは戦力不足であると懸念し、さやかの出撃に難色を見せていた。飛行能力は無いのでビューナスAの足にぶら下ってミケーネとの最終決戦に参加。この際、本来はスカーレットモビル輸送用であり後頭部もしくは額から出るオーロラ光線を両目から発射していた。色も七色だったのがビューナスの光子力ビーム同様のピンクの透過光となっている。本来のダイアナNのビーム兵器であるスカーレットビームは使っていない。なお、漫画版では兜博士の出撃要請を受け、戦闘獣相手に互角以上の戦いを演じている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



2021.06.06

1974年

<https://majingai.x.fc2.com>

グレートマジンガー

1974年

【剣鉄也（つるぎてつや）】声 - 野田圭一

本作の主人公。グレートマジンガーの操縦者。身長180cm。当初は22歳という設定だったが、第19話からは18歳に引き下げられた。甲児と比べて全体的に大人っぽい容姿をしており、物語中盤からはマイナーチェンジが図られた。青いショートトレンチにズボン、紫色のマフラーという私服を好む。元々は孤児であったが、小学生時に兜剣造に引き取られ、操縦者としての適性テストを受ける。そして、その後は厳しい戦闘訓練を受け続けてきたため、純粋な操作技術に関しては甲児をも凌ぐ。一見すると屈強な戦士で、己にも周りに対しても厳しく、配慮のない発言が周囲の人間に反感を買うことがある。一方、生来持ち合わせていた気さくな兄貴な一面を見せたり、年の割には妙に子どもっぽい部分が見られることもある。口の悪さで誰に対してもタメ口で、礼儀や気遣いに欠けるところがある（劇場版で共演したゲッターチームに対しては、差別的な言葉を吐いている）が、兜甲児のことは終始「甲児くん」と呼んでいる。また、非常に対抗意識が強く、子供のころ、友達が飼っていたカナリアに対抗し「男らしい」という理由で鷹を飼っていたこともある。その鷹が友人を襲い失明させたことを後悔しており、カナリアの鳴き声がトラウマになっている（後に克服）。博愛的性格を持つ甲児とは対照的に、孤児であった過去や、それによる暖かい家庭への思慕、養父である剣造への愛憎入り混じった執着などから、様々なトラウマを抱えている。この複雑過ぎる性格が災いして終盤で甲児と激しく対立し、スタンドプレーに走った結果大きな危機を招く。しかし、剣造の死を賭した行動で覚醒して仲間への信頼を取り戻し、重傷を負いながらミケーネ帝国に勝利した。ただし兜シローに対してだけは実の弟同然と思っているぐらいに愛情を持っており、兄・甲児の代わりとしては十分な役割を果たしていた。その思いはシローにも通じていたが「僕達は皆兄弟だよ。甲児兄ちゃんの兄貴は鉄也兄ちゃんだろ」と明確な言葉をシローからもらったにもかかわらず、甲児の帰還により自分の家族と信じていた者を奪われるジェラシーは頂点に達し剣造を失うという悲劇を生んでしまうこととなった。放映当時の書籍「決定版大あばれロボット図鑑」（朝日ソノラマ）には、月の小遣いは千円であることや、ねずみとにんじんが苦手といった細かいプロフィールが掲載されている。なお、次回予告は、第44話より剣鉄也（野田圭一）が話すスタイルにチェンジしている（決め台詞は「次回・グレートマジンガー（サブタイトル名）で、君と会おう」）。

【炎ジュン（ほのおジュン）】声 - 中谷ゆみ

本作のヒロイン。ビューナスAの操縦者。グレートを操縦したりボロットに同乗するようなことは一度もなく最後までビューナス一筋だった。グラマラスなプロポーションの持ち主。くせ毛の黒髪を腰に届くほど長く伸ばしている。基本的に季節を問わず黄色とオレンジストライプの半袖Tシャツに白いミニのプリーツスカートという出で立ちだが、赤茶色のワンピース（第19話のみ）やトレンチコート（大都社版コミックスより）などを着ることもある。第48話・第49話では水着姿も披露。性格はお転婆で好戦的という設定だが、じゃじゃ馬ぶりを強調された前作の弓さやかほどではなく、寧ろおっとり落ち着いた描写が多かった。鉄也やボスに軽口を叩く場面もしばしば見受けられるが、シローに対してはかなり親身になって接しており、剣造にシローを学校に行かせるよう薦めたりしている。多くの孤児の中から敢えて彼女を選んだ剣造の目に狂いはなく、抜群の運動神経を有する。その高い身体能力の一端は第4話で柔道の乱取の際に鉄也へ決めた小外掛や第24話で見せた体操の伸身宙返り、第48話・第49話での高飛び込み場面などで確認できる。第25話でのビューナススクランダーとの合体もテスト無しのぶっつけ本番にもかかわらず一発で成功させている。なかなか多彩な特技を持ち、第5話でのスパニッシュギター演奏や変わったところでは第30話での溶接が例として挙げられる。鉄也とはお互いに戦闘でのパートナーシップ以上の恋愛感情にまで発展することはなく、気心知れた兄妹もしくは体育会系部活の先輩・後輩といった感じだった。ただし第1話や第49話での砂浜で戯れる二人の姿は第三者からすればラブラブなカップルに見えなくもない。ボスからは第1話以来執拗にアプローチされていたが、全く相手にしなかった。ただ、ボロットとの息の合ったコンビでグレートをサポートする場面が随所で見られた。アフリカンスキンの父と日本人の母の間に生まれ（永井豪の初期のラフ・デザインではヨーロッパ人とハーフという設定で、永井豪の漫画ではヨーロッパ人ハーフとして描かれている）、肌の色が浅黒いことから幼少時はいじめられたり仲間外れにされていた。ハーフであることは彼女にとってかなりのコンプレックスであり、第19話では思い悩んで自らの手を血が滲むまで洗い続けていたりした。戦闘獣の出現に際して出撃するも「誰も自分の苦しみを分かってくれない」と戦闘を拒否して敵前逃亡してしまう。その後、教会の牧師とボスによる懸命の説得により漸くこれを乗り越える。ただし、孤児だった過去を振り返る場面は本編中何度か見られたが、肌の色で思い悩むのは第19話のみである。桜多吾作による漫画版グレートが連載された雑誌「冒険王」にて、同じく桜多吾作による漫画版『UFOロボ グレンダイザー』終了後の1977年に連載開始された漫画『マッハSOS』にも同じ名前が登場したが、マジンガーシリーズとは全く無関係の別人として登場している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



【兜甲児（かぶと こうじ）】声 - 石丸博也

前作の主人公。マジンガーZの操縦者。

前作ラストでアメリカのワトソン研究所へ留学したため、本編開始後しばらくはポートレート写真や回想イメージのみの登場だった。第51話で初めて声付きの登場となったが、夢オチであった。第53話で弓教授の要請を受けついに再登場を果たし、光子力研究所の上空で旅客機からいきなり落下傘降下する荒業を見せている。再びZに搭乗してミケーネとの最終決戦に臨み、勝利の一翼を担った。ミケーネ帝国打倒後、円盤に関する研究のためNASAへ移り、『UFOロボ グレンダイザー』の物語につながっていく。

【弓さやか（ゆみ さやか）】声 - 江川菜子

前作のヒロイン。ダイアナンAの操縦者。甲児と共にアメリカに留学していた。

第48話で記憶喪失状態で再登場したかに見えたが、正体は変身したヤヌスだった。

第55話で本物の再登場となるが、続く最終話で剣造の死を切っ掛けに参戦を決意。

ダイアナンAで最終決戦に挑む。

【兜シロー（かぶと シロー）】声 - 沢田和子

甲児の弟であり、兜剣造の次男。

概ね前作と同じライトグリーンの半袖シャツに半ズボン姿だが、冬の

エピソードでは長袖セーターを着用することもあった。甲児がアメリカに

留学した後は光子力研究所預かりだったが、兄のいない寂しさから一時ボスらと

行動を共にしていた。がさつな彼らと一緒にでは教育上よろしくないというジュンの

主張により第2話で科学要塞研究所へ引き取られることに。同時に小学校も「城南学園」へ

と転校している。年相応にやんちゃな性格だが、死んだ（と聞かされている）

両親やアメリカにいる兄の甲児を思って泣き言を漏らすこともある。第5話でボロットに

同乗したり、第8話で自身の専用ロボットを（夏休みの宿題工作レベルで）自作しようと

したりと事ある毎に戦闘参加への意欲をアピールしていた。そして第25話から専用の

ロボットジュニアが登場、同機の操縦者となり戦列に加わる。当初は剣造が父であることを

知らされておらず、第26話で打ち明けられた直後は「お父さんだったら僕が寂しがっている

のに放っておくはずがない」と嫌悪と不信感を抱いていた。とは言っても、まだ小学生である

彼にとって侵略者からの防衛の重要性を理解するのは難しいことであり私情を優先させ、

前作『マジンガーZ』でも兄・甲児からも厳しく叱責されたこともあった。

まだ甘えたい盛りの年齢なので無理はないのだが、第49話で剣造との旅行がミケーネの襲撃に

より中断された時も、どちらが重要なことか頭では理解しつつも我がままを通そうとする姿勢を

見せた。母に対する思慕もかなりのもので前作でもそれは描かれ、本作でも第50話で自分の

担任の先生に亡き母を重ねる時もあった。専用の挿入歌では「僕には日曜日がない」とも

歌われており科学者の家系に生まれてきたことを後悔している面もあったが、孤児でも逞しく

生きている鉄也の姿を見て次第に強い精神力を身に着けて行った。兄の戦いを見守るだけだった

前作より大幅に出番が増え、学校生活も多く描写された。兜剣造の息子にして兜甲児の弟ということで

格好の標的として狙われることが多く、第1話・第13話・第23話・第37話・第42話・第43～44話で人質にされている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



グレートマジンガー

1974年

グレートマジンガー

1974年



【暗黒大將軍】声 - 緒方賢一
身長35m、体重480t。ミケーネ帝国の総司令官で七大將軍の纏め役。ミケーネ本土に居城を構えている。その姿は甲冑姿の武人を模しており、胸部から腹部にかけて改造前の顔が残っている。武器は腰に装備した剣で、先端からつむじ風を起こすこともできる。両目からは破壊光線を放つ。元々は闇の帝王に敗れたアレス国の將軍だったが、その武勇を惜しんだ闇の帝王によりサイボーグ化され、以後は忠誠を誓うようになる。第16話のゲルビニウスの回想により古代ミケーネ王国を侵略した時点で既に戦闘獣となっていることが分かる。正攻法を好むため、情報戦略を重んじるアルゴス長官以下諜報軍とは折り合いが悪い。しかし、その有用性は認めているため、窮地の際には協力を要請することもある。地獄の責め苦に落とされたユリシーザー、アンゴラス両將軍の赦免を闇の帝王に願い出るなど、温情采配も随所で見せる。本作中盤となる第30話・第31話で將軍たちの度重なる失態に業を煮やし、自ら作戦指揮に乗り出した。その心意気に打たれたヤヌス侯爵の援護の下、グレートマジンガーを後一步のところまで追い詰める。しかし、とどめを刺す寸前に弱点を衝かれ、戦死を遂げる。闇の帝王や七大將軍はもとより、対立関係にあったアルゴス長官やヤヌス侯爵、敵である剣鉄也までもがその武勇を認め、死を悼んだ。



【ミケーネ帝国】
闇の帝王とゴゴン大公以外の幹部クラスは、グレートと同程度の身長戦闘獣。人間の表情は顔でなく腹など別の場所に付いているのが特徴。

【闇の帝王】声 - 柴田秀勝
ミケーネ帝国の支配者。巨大な火炎の身体に、人の顔を思わせる紋様が浮かんでいる（この姿を現すのは第21話以降で、それまでは声のみ）。三千年前、機械獣をはじめとする超科学兵器を用い、アレス国そしてミケーネ王国を征服。一大ミケーネ帝国を築き上げた。その威容と重みのある言葉（テレパシー）で側近たちを威圧し、懲罰するときには雷撃を用いる。その威力は凄まじく、サンダーブレイクの直撃にも耐える暗黒大將軍が気絶してしまうほど。一方で、手柄を立てた者には惜しみない賞賛を送る面も持つ。主に地底の本拠地で指令を下していたが、第35話のみミケロスのモニター越しにアルゴスへ命令する場面が見られた。その出自・正体については、「ミケーネ王国からの追放者」や「異星人」といった諸説が各媒体で存在するが、最後まで明かされることは無かった。彼の正体と末路は、漫画版『UFOロボ グレンダイザー』（著 - 桜多吾作）や、小説作品『スーパーロボット大戦』（著 - 団龍彦）で描かれているが、あくまで各々の作者による独自解釈である。



【地獄大元帥】声 - 神弘無 / 富田耕生（スーパーロボット大戦シリーズ）
身長25m、体重320t。暗黒大將軍の死後、第36話からその後任に就いた新幹部。その正体は、ミケーネ帝国の科学力で戦闘獣として蘇ったDr.ヘル。頭部のコックピットの中にアイパッチを着けたDr.ヘルの上半身のみが設置されていて、地獄大元帥の体をコントロールしているが、地獄大元帥の体から分離することはできない。前作における人間味のある描写は描かれず、冷酷非道な作戦を躊躇わずに実行する。武闘派の暗黒大將軍と異なり、科学者としての頭脳を駆使して強力な戦闘獣を開発し鉄也を追い詰めていった。就任時には「ミスをした者は直ちに処刑」と七大將軍を大いに恫喝したが、鷹揚であり誰も処刑されてはいない。第40話で十字架に磔にしたグレートを鞭で滅多打ちにする夢を見たり、第54話で兜甲児への憎しみのあまりマジンガーZの人形をズタズタに切り裂いたりした。が、最後までマジンガーZともグレートマジンガーとも直接戦闘はしなかった。最終決戦では集中攻撃を受ける要塞デモニカ内に籠ったまま、デモニカの大爆発に巻き込まれ爆死した。永井豪の漫画版ではマジンガーZ、グレートマジンガーと戦っている。バリアーランドによりミサイルや光線を封じ、超合金ニューZさえ溶かす地獄ファイヤーという技を使い優勢だったが、最後はグレートマジンガーのサンダーブレードによって戦死した。
出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2021.06.07

<https://majingai.x.fc2.com>

グレートマジンガー

【猛獣将軍ライガン】声 - 峰恵研

身長20m、体重350t。
猛獣型戦闘獣を率いる。胸部に改造前の顔が残っている。ライオンがベースだけに獰猛な性格で、力押しの作戦では地獄大元帥自らライガンを指名するなど、その腕を認められている。ポロッドを馬鹿ロボットと呼んで忌み嫌う。漫画版では牙から電撃を出す設定が追加されている。ミケロス最後の出撃となる第39話でも指揮官を任されたが、ミケロスを喪失してしまい泳いで逃げ帰った。最終決戦ではアンゴラス戦死後、形勢不利と見て逃走するが、マジンガーZの光子カビームが体を貫き死亡する。

【悪霊将軍ハーディアス】声 - 永井一郎

身長22m、体重250t。
悪霊型戦闘獣を率いる。顔が逆さまの觸體の頭部とほぼ常に上げている左腕の先に顔を持ち、改造前の顔は胸に残っている。魔術や妖術を得意とする。陣頭指揮を執ったのは第3話・第6話の僅か2回と最も出番が少なかった。あまりに希少な技を使うらしく、軍団の構成員も他の軍団に比べ少ない。最終決戦では、地獄大元帥に命じられマジンガーZの進攻を防ぐため出撃。自らの足、頭部を飛ばし、鎌を使って防戦するものの、ルストハリケーンで吹き飛ばされ、自身の鎌で体を切り裂かれてデモニカに激突し死亡する。永井豪の漫画版ではグレートマジンガーと戦っている。七大将軍が一斉に襲い掛かる幻術を見せグレートを苦しめるが、幻と気づいた鉄也に猛反撃を受け爆死した。

【妖爬虫将軍ドレイドゥ】声 - 肝付兼太

身長23m、体重300t。
爬虫型戦闘獣を率いる。巨大な龍のような頭部を持ち、改造前の顔は腹部に残っている。策士であり性格は狡猾で卑劣。発案する作戦自体も大掛かりで残忍なものが多かった。初陣の第5話では「爬虫類将軍」とクレジットされている。前半はコリシーザーと並ぶ程の出番の多さだったが、第19話を最後に爬虫型戦闘獣が登場しなくなったため、以降は七大将軍モブシーンの登場のみとなる。最終決戦ではデモニカ内部にいたところを突入してきたZのジェットスクランダーで背後から胴体を切断され死亡する。TV本編で戦闘に参加することは無かったが、口から放射能を含んだ火炎を吐くという設定がある。



2021.06.09

【超人将軍コリシーザー】声 - 村越伊知郎 (第2話 - 第16話)

氷鳥鉄夫 (第21話 - 第53話)
西村知道 (スーパーロボット大戦シリーズ)
身長22m、体重350t。人間型戦闘獣を率いる。七大将軍の中では最も出番が多かった。胸部に改造前の顔が残っている。ゴゴン大公戦死の際には、アンゴラスとともに背信行為を闇の帝王に見破られて怒りを買い、第23話で地獄の責め苦に落とされた。第24話で暗黒大将軍の執り成しにより恩赦が下り復帰。第53話でマジンガーZと対決し、自分の頭部を投げる荒技で攻撃した。しかしルストハリケーンで撥ね返され全く通用しなかった。その他の武器は腰に装備した短剣。最終決戦では出番がカットされ、その顛末は行方知れずになる。永井豪の漫画版ではグレートマンモスに跨り、研究所攻撃司令官として槍をもって出撃するもサンダーブレイクを食らい戦死している。

【怪鳥将軍バーダラー】声 - 山田俊司

身長23m、体重280t。
鳥類型戦闘獣を率いる。胸部に改造前の顔が残っているが、他の将軍と違い人間ではなく中南米かアフリカの仮面を思わせるデザインとなっている。強気で自信過剰な性格。自身の手柄のためには平気で抜け駆けをし、勝手に出撃するなどスタンドプレーが目立つ。配下の鳥類型戦闘獣は以前に何度か出撃していたものの、自身が初めて陣頭指揮を執ったのは第32話と七大将軍の中でもダントツで遅かった。第47話で科学要塞研究所に攻め込み半壊まで追い込んだが、勝利を確信してデモニカの司令塔へ上がってきたところに新兵器グレートブースターの直撃を受けてしまう。ゴゴンや暗黒大将軍のような絶命シーンは無かったものの、以後登場していない。

【魔魚将軍アンゴラス】声 - 矢田耕司 (ナレーションも兼任)

身長23m、体重330t。
魚類型戦闘獣を率いる。チョウチンアンコウのような姿をしていて、チョウチン部分に改造前の顔が残っている。顔の側面についた鰭を使い津波を起こすことができるという設定がある。自ら進んで復讐戦に挑むと発言し出撃はするが、暗黒大将軍の助言を受けると「現場まで口を出されては、かなわんわい」と裏で不快感を見せていた。また形勢不利と見るとすぐさま撤退、作戦が失敗した際には部下に責任を押し付けるなど将軍らしくらぬ行動の描写が多い。ゴゴン大公戦死の際には、コリシーザーとともに背信行為を闇の帝王に見破られて怒りを買い、第23話で地獄の責め苦に落とされた。コリシーザーは第24話ですぐに復帰したが、彼は第29話まで復帰できなかった。最終決戦では、マジンガーZの足にしがみついているところへヒューナスAの光子カビームが直撃し、最期を遂げる。

【大昆虫将軍スカラベス】声 - 八奈見乗児

身長23m、体重330t。
昆虫型戦闘獣を率いる。胸部に改造前の顔が残っている。武器は腰に装備した剣だが、劇中で使用したのは第10話で寝ているブルードンに無理やり出撃しよう剣を突きつけ脅すシーンのみ。協調性が高く、しばしば他の将軍と共同作戦を行う。冷静な指揮官であり、とっさの出来事の判断も早い。またアンゴラスとは違い、暗黒大将軍のミスを擦り付けられた時も、彼は黙って受け入れていた。第26話でミケロスに突入してきたグレート体当たりを食らい吹っ飛ばされており、この時点でグレートと直接戦闘した経験のある将軍は彼のみだった。(後に第47話のバーダラーも加わるが)。第26話を最後に昆虫型戦闘獣が登場しなくなり出番は激減したが、第45話では地獄大元帥に比較的そつのない実績を買われ、昆虫型ではない戦闘獣バトラーズの指揮を任された。最終決戦では移動不能に陥ってしまったデモニカ内部で死ぬまで地獄大元帥の側に控えていた。

グレートマジンガー

1974年

諜報軍

【諜報長官アルゴス】声 - 大竹宏

身長25m、体重300t。

ミケーネ帝国の諜報軍長官。鳴門海峡に専用の城を構えている。第2話のみゴーンと同じ等身大サイズに描かれた。山羊頭人身の姿で、左腕の杖に本当の顔がある。また体内に高性能な電子頭脳（コンピュータ）を内蔵しており、作戦立案の一助としている。暗黒大將軍とは、戦法の好み異なるため対立関係にあり、斬り合いをしたことがあるほど（第17話など）だが、素直に協力を求めてきた場合は快く応じていた。暗黒大將軍戦死後、主導権を握ろうとリーダー風を吹かせたこともあったが、結果を出せぬ内に地獄大元帥が登場し御破算となる。戦法の好み重なる地獄大元帥とも、そりが合わず仲が悪かった。最終決戦直前の第54話でドリルプレッシャーパンチにより身体を破壊されたが、杖の顔は無事だったため辛うじて生き残る。本体は最後まで修復されず（最終回アバタイトルで一瞬だけ完全復活しているが）、杖の顔は最終回までヤヌス侯爵が大事に抱えていた。最後はデモニカと共に爆死。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

【ヤヌス侯爵】声 - 北浜晴子

身長23m、体重270t。

諜報軍所属。ゴーン大公の後任として第23話から登場。破壊光線や催眠光線を出す杖を振るい、特殊部隊・キャットルー軍団を率いて暗躍する。普段は七大將軍と同様、長い爪を生やした巨体で過ごしているが、左肩に黒猫を乗せた等身大の妙齡の美女の姿でも行動でき、巨体に入ると左胸の透明スクリーンに人間の顔が出る。変身能力も持っていて、巨大な本体自体も人間サイズに化けることが出来る。二つの顔を持つローマ神話の神ヤヌスにちなんでおり（ただし神話のヤヌスは男神）、この美女の顔と、首を半回転させて現す魔女の顔を持っている。設定画では右胸からミサイルを発射するとあったが、一度もグレートやビュナスと戦闘することはなかったため作中での使用はない。グレートや研究所の弱点を探し、そこを攻めることに長けており、ヤヌス侯爵の登場後、グレートが苦戦する話も増える。嫌っていた暗黒大將軍の心意気を感じ入り、全力を挙げて援護するなど、武人氣質も持ち合わせている。最終決戦で要塞デモニカと共に爆死した。

【ゴーン大公】声 - 加藤修

諜報軍所属。『マジンガーZ』より引き続き登場。前作では地下帝国のトップであるDr.ヘルとも対等な立場だったが、本作では七大將軍より格下の中堅幹部扱い。幹部クラスでは唯一の等身大である。横から差し出口をして將軍から叱責されることも多い。空中を滑るように移動する。下半身の虎の目はビデオカメラのようになっていて、記録した映像を映写することも出来る。前線基地・火山島の建設を命じられるが、臨時に配下とされたユリシーザー、アングラス両將軍に横柄に接したため、彼らの独断専行に巻き込まれる形になった。第22話で戦闘獣ダングロスをかばってサンダーブレイクを受け、虎の胴体部分が吹っ飛ぶ瀕死の重傷を負う。最後の力を振り絞って完成したばかりの火山島基地に辿り着き、闇の帝王から「貴様は我が戦闘軍団の鑑だ」と激賞され念願の火山島司令官に任じられる。得意の絶頂にあったが、そのさ中に吐血して司令官席から転げ落ち絶命した。

2021.06.11

グレートマジンガー1974年



【万能要塞ミケロス】

七大将軍らが地上を攻撃する際に搭乗した巨大母艦。司令室はマジンガーサイズの幹部達が執務出来る広さがある。武装としては四方に付いた顔の両目から光線を発射する他、下部のプロペラを高速回転させて起こすミケロスハリケーンなどがある。戦闘獣の発進口としては、四方の顔と上部円盤のてっぺんの2箇所がある。第39話で爆薬を満載させた上部を切り離して科学要塞研究所の破壊を試みるが、グレートに阻止され切り離れた上部を本体へ投げ返されて大爆発の末に海の藻屑となった。デザインは永井豪。



【無敵要塞デモニカ】

ミケロスに代わって第40話から登場した新たな巨大母艦。陸・海・空はおろか地中を掘り進むことも可能。武装としては口から凄まじい数のミサイルを発射する他、巨体に物を言わせた体当たりなどがある。ミケロスや火山島にはグレートやビューナスの攻撃のダメージが確実に入っていたのに対し、頑丈でサンダーブレイクやブレストバーン、ブレストファイヤーなどの単発攻撃くらいではビクともしない。しかし、最終回（第56話）でのZ・グレート・ビューナス・ダイアナン4体による集中攻撃にまでは耐えられず、地獄大元帥やヤヌス公爵らもとも爆発四散した。デザインは永井豪。

【戦闘獣】

ミケーネ帝国が繰り出す戦闘用巨大ロボット。Dr.ヘル「機械獣」の電子頭脳にあたる部分にはミケーネ人の頭脳が用いられている。頭部とは別に、胸部あるいは腹部に、顔があり、劇中ではこの部分がセリフをしゃべり、表情が動く（ただしヤヌス公爵は胸に映像として表示されており、地獄大元帥は頭部にサイボーグ化したDr.ヘルが搭乗している）。セリフをしゃべるのは基本的に幹部以上に限られ、一般の戦闘獣は唸り声や鳴き声を上げる以外は表情が変わるのみである（劇場版はこの限りではない）。『マジンガーZ』の敵キャラクターは、創造主であるDr.ヘル（唯一生身の人間）と、等身大のサイボーグである幹部（あしゅら男爵・ブロッキン伯爵・ピグマン子爵）と兵士（鉄仮面軍団・鉄十字軍団）、および巨大ロボットの「機械獣」（通常は自らの意思を持たない）が明確に区別されていたのに対し、ミケーネ帝国では暗黒大將軍以下幹部自身が巨大かつ強力な戦闘獣であり、彼らとグレートマジンガーとの直接対決はシリーズの山場となる一方（第31話、第56話など）、元はといえば同じミケーネ人である彼ら巨大キャラクターと等身大のゴーゴン大公やヤヌス公爵との丁々発止のやり取りは、本作品の敵キャラクターの描写に独特の面白味を加えていた。また、戦闘獣自身が自らの意思を持つゆえ、その性格や生き様の描写がストーリーに深みを与えたエピソードもあった（第9話、第16話など）。基本的にグレートと同程度のサイズがほとんどだが、ガバラ（第22話）やソルゴス（第46話）のように遥かに巨大なサイズのものも存在する。第10話のブルートンや第40話の地獄大元帥のように就寝する個体もいる。劇中でクレジットされた名前付きの戦闘獣以外にも第12話でバイソニアに破壊される静止画の3体、第45話でバトラーズに破壊される1体、第50話でグレートブスターに破壊されるスライド写真の4体、と名称不明の戦闘獣が数体登場している。劇場版『UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー』では兜甲児の回想中に闇の帝王の前でグレートと対決する名称不明の1体が登場。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

グレートマジンガー 1974年

【兜甲児】声 - 森久保祥太郎
10年前にマジンガーZで世界を救った英雄。現在では父や祖父の後を継ぎ研究者となっているが、その正義感と闘志はまだまだ健在であり、復活したDr.ヘルの脅威に対抗するために前線に復帰する。

【弓さやか】声 - 茅野愛衣
かつては甲児と共に、パイロットとして戦っていた。その後、甲児とともに一時アメリカへ留学する。現在では、父の弦之助の意思を継ぎ新光子力研究所の所長を務めている。

【リサ】声 - 上坂すみれ
謎の巨大遺跡インフィニティから出現した人型アンドロイドの少女。最初に起動させた兜甲児をマスターと設定したため、彼を「ご主人様」と呼ぶ。名前は、のっそり博士とせわし博士が「Large Intelligence System Agent」の頭文字から取って名付けたもの。アンドロイドではあるが全身の91%が生体パーツでできており、食事も可能で感情豊か。「自分は少女らしい心を持っている」および「そういうプログラムが私にはある」と自覚しており、感情表現も激しいが、出てくる言葉は理路整然としている。なお、格闘性能も高く、ブロッケン伯爵には「ガミアQのコピーか」と言われたが、オリジナルだと返している。

【剣鉄也】声 - 関俊彦
かつて甲児と共に戦い、人類を救ったグレートマジンガーのパイロット。現在でも軍に残り、地球の平和を守っている。物語の冒頭、テキサスでの交戦任務中にグレートマジンガーごと失踪する。

【炎ジュン】声 - 小清水亜美
鉄也と共に育った元孤児。10年前の戦いではビューナスAのパイロットとして戦った。後に鉄也と結ばれ、彼との子を妊娠している。

【兜シロー】声 - 花江夏樹
甲児の弟。10年前の戦いではまた子供だったが、現在ではイチナナ式のパイロットとなり、統合軍三番隊の小隊長を務める。

【ボス】声 - 高木渉
甲児の旧友にして元ボスボロットメインパイロット。現在は古びた建物でラーメン屋「ぼすらーめん」を営む。本作でもボスボロットとともに活躍する。

【弓弦之助】声 - 森田順平
元・光子力研究所所長で弓さやかの実父。本作では出馬要請もあり、政治の世界で戦うため日本国首相を務める。

【Dr.ヘル】声 - 石塚運昇 / 谷昌樹 (スーパーロボット大戦T)
悪の天才科学者。『グレートマジンガー』最終決戦時に無敵要塞デモニカと共に爆死したはずだが、謎の復活を遂げて、甲児達の前に現れた。

【あしゅら男爵】声 - 宮迫博之 (男)、朴璐美 (女)
Dr.ヘル一派の幹部。テレビシリーズでマジンガーZに敗れ死亡したはずだが、Dr.ヘル、ブロッケン伯爵共々復活を遂げる。

【ブロッケン伯爵】声 - 藤原啓治
Dr.ヘル一派の幹部。元ドイツ軍将校のサイボーグ。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

【スタッフ (マジンガーZ / INFINIT)】

- 原作 - 永井豪
- 監督 - 志水淳児
- 助監督 - なかの★陽
- CG - 中沢大樹、井野元英三
- 脚本 - 小沢高広
- キャラクター - 飯島弘也
- メカニック - 柳瀬敬之
- 音楽 - 渡辺俊幸
- 美術 - 氏家誠
- 制作 - 東映アニメーション
- 配給 - 東映
- 製作 - MZ製作委員会 (東映アニメーション、ダイナミック企画、東映、バンダイナムコグループ、木下グループ、ADK、KADOKAWA、ワーナーミュージック・ジャパン)